

国土審議会 第10回北海道開発分科会 議事概要

1. 日 時:平成20年2月20日(水)12:15~13:50
2. 場 所:中央合同庁舎第3号館 11階特別会議室
3. 出席者:[委員]丹保分科会長、井須委員、上田委員(代理出席:札幌市 鈴木東京事務所長)、小川委員、見城委員、生源寺委員、高橋委員(代理出席:嵐田北海道副知事)、橋本委員、南山委員、森地委員、吉川委員
[国土交通省]山本大臣政務官、品川北海道局長 他

4. 議事次第

- (1)開会
- (2)委員紹介
- (3)大臣政務官挨拶
- (4)議事
 - 1)パブリックコメントの結果及び提出された意見への対応について
 - 2)その他
- (5)閉会

5. 議事及び主な発言内容

パブリックコメントへの対応と、これまでの分科会・部会での御意見も踏まえた素案の変更案について、以下の議論が行われた。

【主な意見】

- ・ 新幹線については、パブリックコメントでの意見にも、道知事からの意見書にもあるように、札幌延伸に向けた環境整備について明記すべき。
中国の食品関係について、消費者は不安を抱いている。農業は国を支える基礎であり、安全・安心な食を提供するための基盤整備は、日本の発展にも繋がる。
農業の担い手や子どもたちが夢を持てるよう、北海道の「食」の素晴らしさを高め、力強い農業経営を行うための体制を構築するため、力を合わせていきたい。
- ・ 国土審議会では、国土形成計画(案)の答申に際して、付帯意見が付けられた。他省庁などとの関係からなかなか計画に書き込めないものもあり、新幹線についても難しかったということだと思いが、分科会での審議の証拠を残すことは考えられる。
- ・ 北海道について一番心配なのは、人口減少。地元で雇用が無いのが一番の原因で、エネルギーや食料、森林関係資源の需給逼迫といった北海道にとっての追い風を、雇用に結びつけられるといい。
北海道の産業は、第1次産業と観光が2本柱。農業や森林について、どう付加価値を高め、雇用を生み出すか、研究してもらいたい。
- ・ 日本の中で、サステイナブルな社会を実現できるのは北海道しかない。自立に向けて適切な設計が出来るかが問われているが、これについては長いスパンでの議論が

必要である。

- ・ 参考資料2にあるとおり、12月に決定した道庁の総合計画を基に、意見書を提出した。その中でも、北海道総合開発計画について閣議決定をしていただきたいということ、北海道新幹線について札幌延伸を明記してもらいたいということについては是非お願いしたい。

パブリックコメントへの対応については、異議はない。

- ・ 具体的な記述が増して、分かりやすく説得力のあるものになった。さらに何か加えるなら、分科会長がおっしゃったように、国土形成計画のように意見を付けるという手が考えられる。

- ・ これまで札幌市として、知の集積、食の高付加価値化、新エネルギー、情報発信について意見を述べてきたが、新たな計画(素案)はこれらが網羅されたものになっており、内容に異議は無い。

今後は、道都としてどのように計画に寄与できるかが重要であると考えている。札幌の機能は北海道全体で活用すべきであり、他の都市との連携、相互補完が重要。このスタンスに立って、今後の施策を進めていきたい。

- ・ 北海道から世界に打って出るには札幌を経由するしかない。道民へのサービス提供と共に、世界への窓口の役割についても考えてもらえるといい。

- ・ グローバリゼーションを踏まえ、何が世界のため、日本のためになるかという観点から、農産物をサハリンに輸出するための道路整備を、「国際インフラ」という概念で進めてもらいたい。例えばシンガポールのチャンギ空港などは、世界のために整備され、それがシンガポール自身の利益にもなっている。

計画は、日本全体に言える一般論ではなく、北海道の視点から書かれており、良くできている。

- ・ 新たな計画を指針として、北海道の自立に向け、農林水産業・観光業といった基幹産業に加え、新たな産業を誘致するといった構造改革を進めてもらいたい。

北海道には、まだインフラ整備が必要。北海道の自立に向けて必要な整備が行われるよう、是非新たな計画を推進してもらいたい。

1点だけ、新幹線の記述について注文をしたい。現在、政府・与党プロジェクトチームは、3月までに、未着工区間の財源問題等を解消し、札幌延伸についても決定したいという状況である。この計画でも、新幹線について、札幌延伸を記述すべき。新幹線は、自立のための大きな要素であり、住民へのメッセージにもなる。今の書きぶりでは、地元の人が勝手にしてくれとしか読めない。ここはゆずれない点である。

- ・ 新幹線は12月に開催された部会、分科会でも議論があった。どう計画に書き込めるのか、検討をしたい。

- ・ 素案は、十分に良くできたものになっている。

国土形成計画の付帯意見について補足すると、付帯意見は、計画の内容に不足

があるからということではなく、今後どう進めていくかについて記したもの。

豪雪地域、半島、離島など条件不利地域への制度については、1度抜本的に見直した方がいいと思っている。この計画でいえば、人口低密度地域を素晴らしい地域にしていくということを1つの柱にしているが、そのための枠組みをもう一度作り直すべきであると個人的な考えとしては持っている。

- ・ 分かりやすく、読みやすいものにまとまっている。
道路整備の有無は、例えば出産をする際には命に関わる。そういった生命をつなぐための道路という観点が重要。
- ・ 交通網をどうするかは重要な問題。新幹線については、P22の14行目の新幹線に合わせて交通網を整備するというのは順序が逆であり、まず道内の交通網を整備した上で新幹線を導入すべき。
- ・ この計画は、国の計画であるとともに、道民へのメッセージでもある。新幹線は、ネットワークの象徴であり、何らか札幌延伸についての記述が書き込まれていることが、メッセージという観点から重要。
- ・ 関係者ごとに様々な意見があるため、頂いた意見を計画にそのまま反映することは難しいだろうが、分科会として独自の意見を持っていることを表現できるといい。最後に、分科会としてのメッセージが失われないよう、本日頂いた御意見を踏まえ、付帯意見の作成を検討したい。
このため、御意見等のある委員の方は、事務局まで提出していただきたい。
計画については、中身はもちろん、表現もスムーズなものになっており、これまでの議論の甲斐があった。今後、どう実体化していくかにあたっては、分科会として考えていたことを色々な場で理解してもらえないようにしないといけない。
事務局のほうで、鋭意検討を進めていただき、次回3月19日には、とりまとめの議論を行いたい。

以上

(速報のため、事後修正の可能性あります。)